

NO. 203 有松地区における地元住民と観光客の空間利用に関する研究
ー イベント開催による有形・無形の観光資源への関心の変化に着目して ー

竹田研究室（インテリア・プロダクト分野）論文 A22AB037 鏡味愛梨

1. 序論

1-1 研究の背景・目的

愛知県名古屋市長区の有松地区は、江戸時代の町並みと「有松・鳴海絞り」を中心に¹⁾、2019年認定の日本遺産「江戸時代の情緒に触れる絞りの産地」として、有形・無形の文化財を活かした活性化を推進している。

毎年6月には伝統の技を披露する「有松絞りまつり」が開催され、2日間の合計来場者数は約9万人である。この盛況なイベント開催日（有松絞りまつり）と通常日の来訪者格差が指摘されている^{2) 3)}。

本研究では、イベント開催による有形・無形の観光資源への関心の変化に着目し、地元住民と観光客の空間利用の実態を明らかにする。これを通じ、地元住民と観光客双方が満足し得る持続可能な観光地活性化に向けた課題を検討することを目的とする。

1-2 既往研究と意義

有松地区に関する既往研究として、伝統的居住文化の維持・保全と観光開発の共生に関する研究、町並み保存地区における修景実態に関する研究などがみられる⁴⁾。地元住民と観光客の空間利用に関する研究はみられなかった。

2. 研究手法

2-1 用語の定義

- ・ 地元住民：アンケート調査によって、地元住民であると回答した人
- ・ 観光客：地元住民であると回答しなかった人
- ・ 有形：建物、町並み⁵⁾
- ・ 無形：イベント、飲食、絞りの販売⁵⁾

2-2 分析手法

本研究では、有松地区を訪れた人々を対象に、イベント開催日（有松絞りまつり）と通常日のそれぞれでアンケート調査（自記式・マッピング調査を実施し、地元住民と観光客それぞれの特徴、および行動動線を比較し分析する。

- ・ 調査対象：有松地区の地元住民、および観光客
- ・ 調査期間：2025/06/07〔土〕（イベント開催日）、2025/11/01, 08〔土〕（通常日）
- ・ 調査内容：属性、滞在時間、来訪目的、歴史的建造物

の関心、有松地区全体において改善すべき点、および行動動線（マッピング）

- ・ アンケート回答者数：計126名
イベント開催日 66名、通常日 60名
- ・ マップ有効回答数：計118名

3. アンケート調査結果

3-1 イベント開催日

イベント開催日は、地元住民と観光客で来訪目的に差がある（表1）。地元住民は飲食など日常の延長として楽しむが、観光客は買い物や景観目的の消費が中心である。滞在時間は共に1時間以上だが、地元住民は1～4時間に分散し、観光客は全層に広く分布する。歴史的建造物への関心は共に約9割と高いが、観光客には一部無関心層もあり、来訪目的の多様化が窺える。総じて高い関心を持つものの、属性間で観光資源に関する関心や活動の深度に隔たりが認められる。

3-2 通常日

通常日では、地元住民は日常生活、観光客は景観鑑賞が主で、観光客の方が滞在時間が長い。歴史的建造物への関心は地元住民で83%であった。観光客も92%と高いが一部に無関心層もあった。また、有松地区全体の改善点について飲食店が少ないという回答が挙げられていた。

3-3 イベント開催日と通常日の比較

イベント開催日と通常日では、来訪目的に差がある。イベント開催日は、地元住民の「飲食などの日常」と観光客の「買い物や観光」が同じ空間で混ざり合い、賑わいが一体化している。しかし通常日は、地元住民は「日常生活」、観光客は「景観鑑賞」と来訪目的に差があり、両者の活動は切り離されている。

表1 アンケート調査分析結果

		地元住民				観光客			
		イベント開催日	通常日	イベント開催日	通常日	イベント開催日	通常日	イベント開催日	通常日
来訪目的	イベント開催日	食事 4%	その他 4%	食事 1%	その他 2%	食事 1%	その他 2%	食事 1%	その他 2%
	通常日	食事 23%	その他 12%	食事 19%	その他 19%	食事 19%	その他 19%	食事 19%	その他 19%
滞在時間	イベント開催日	0% 1時間未満	0% 1時間未満	0% 1時間未満	0% 1時間未満	0% 1時間未満	0% 1時間未満	0% 1時間未満	0% 1時間未満
	通常日	0% 1時間未満	0% 1時間未満	0% 1時間未満	0% 1時間未満	0% 1時間未満	0% 1時間未満	0% 1時間未満	0% 1時間未満
歴史的建造物の関心の有無	イベント開催日	あり 83%	なし 17%	あり 83%	なし 17%	あり 83%	なし 17%	あり 83%	なし 17%
	通常日	あり 83%	なし 17%	あり 83%	なし 17%	あり 83%	なし 17%	あり 83%	なし 17%
有松全体への改善点記入	イベント開催日	あり 30%	なし 70%	あり 30%	なし 70%	あり 30%	なし 70%	あり 30%	なし 70%
	通常日	あり 30%	なし 70%	あり 30%	なし 70%	あり 30%	なし 70%	あり 30%	なし 70%

4. マップ調査結果

4-1 ルートの利用傾向

図1の塗りつぶされている部分は、有松地区のメイン通りを示している。有松地区のメイン通りにおける東側及び西側の空間利用実態を比較すると、イベント開催日は観光客の流入や催事の分散により、地元住民を含め東西両ルートが広域に利用されていることがわかる（表2）。一方で通常日は、東西に歴史的建造物があるのに対し、駅に近い東側に利用が集中し、西側への回遊は限定的である。観光客や住民の歩行圏域が特定エリアに偏り、地区全体を横断する空間利用がなされていない現状が示された。

4-2 有形・無形による来訪目的の実態

来訪目的を確認した上で、歴史的建造物の観光を有形、飲食・絞りの物販を無形に分類し、訪問率を分析した（図2）。イベント開催日は有形資源の関心よりも無形資源への関心が高まる傾向がみられた。一方、通常日は飲食の利用率が低く、観光客のみならず地元住民の滞在や消費行動が限定的であった。

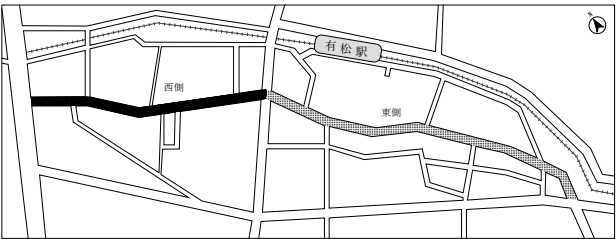


図1 有松地区⁶⁾

表2 東側・西側のマップ調査分析結果

	東側	西側
イベント開催日	通った 48% 通ってない 12%	通った 42% 通ってない 18%
通常日	通った 30% 通ってない 2%	通った 30% 通ってない 58%

イベント開催日の有形・無形来訪目的の実態 通常日の有形・無形来訪目的の実態

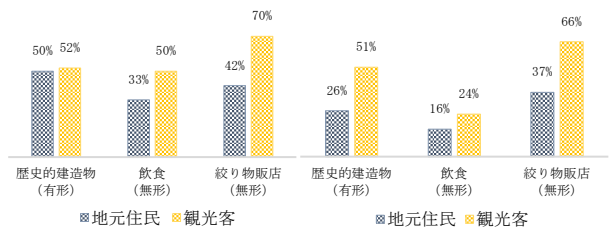


図2 マップ調査分析結果

5. 考察

有松地区における空間利用と観光資源への関心は、イベントの有無によって変化することが示された。まず、東西間の回遊性格差については、通常日の西側エリアに対する店舗数や拠点となる施設の不足が、観光客および地元住

民の回遊動機を限定する要因となっていたと考えられる。観光資源への関心に関しては、イベント開催日には無形資源への関心が高まることが確認された。対照的に通常日は、飲食という無形資源が少ないことから滞在時間の短縮を招き、結果として有形資源への深い関心や他店舗への回遊を限定している可能性がある。以上の考察から、地区の持続的活性化には、有形資源の魅力を維持しつつ、日常的な無形資源を拡充し、それらを東西に繋ぐ新たな回遊動線設計が有効であることが考えられる。

6. 結論

本研究では、有松地区におけるイベント開催日と通常日の空間利用および観光資源への関心を比較し、両日の賑わいの差が来訪者の回遊行動や滞在の質に影響を及ぼしていることを明らかにした。イベント開催日は、広域な回遊と無形資源への高い関心がみられる。対して通常日は、駅に近い東側に利用が集中しており、特に飲食等の無形資源の少なさが、来訪者の滞在時間や有形資源への深い関心を限定する要因となっていることが示唆された。

西側エリアの歴史的建造物の活用や飲食店、訪問場所の拡充が課題として挙げられる。有形・無形資源の双方の活用と、回遊性を高めるための動線の検討が地区の持続的活性化につながる手法の一つとして考えられる。

7. 参考文献

- 1) 有松地区：有松の歴史と沿革 | 緑区公式ウェブサイト (2025 年)
<https://www.city.nagoya.jp/midori/miryoku/1024793/1024794/1024800.html>
- 2) 日本遺産の有松を文化庁「再審査」 認定取り消しに名古屋市が危機感 (朝日新聞 2025 年)
<https://www.asahi.com/articles/AST812JNXT810IPE003M.html?msockid=1631d0534ela65713161c2c74fc864e>
- 3) 観光客数：名古屋市観光客・宿泊客動向調査 (2023 年) について (2025. 10. 15)
https://www.city.nagoya.jp/_res/projects/default_project/_page_/001/004/252/gaiyou2023.pdf
- 4) 既往研究：
・藤木 庸介、北山 めぐみ、平尾 和洋、向坊 恭介、宗本 晋作、山田 悟史 (2010) 「名古屋市緑区有松地区における歴史的町並みの現状と課題：伝統的居住文化の維持・保全と観光開発の共生に関する研究その 1」『日本建築学会大会梗概集』 pp. 701-702
・北山 めぐみ、山本 直彦、平尾 和洋、増井 正哉 (2014) 「名古屋市有松町並み保存地区における修景実態に関する研究：外観意匠の類型化と伝統的建造物の意匠との対応関係」『日本建築学会四国支部研究報告集』 pp. 125-126
- 5) 有形・無形：文化財一覧 | 日本遺産 有松サイト (2020 年)
<https://shibori-kaikan.com/arimatsu-isan/cultural-property/>
- 6) 図1 有松地区：有松レトロまち歩きガイド (2023 年)